

# 東洋炭素 2011年5月期第2四半期 決算説明資料

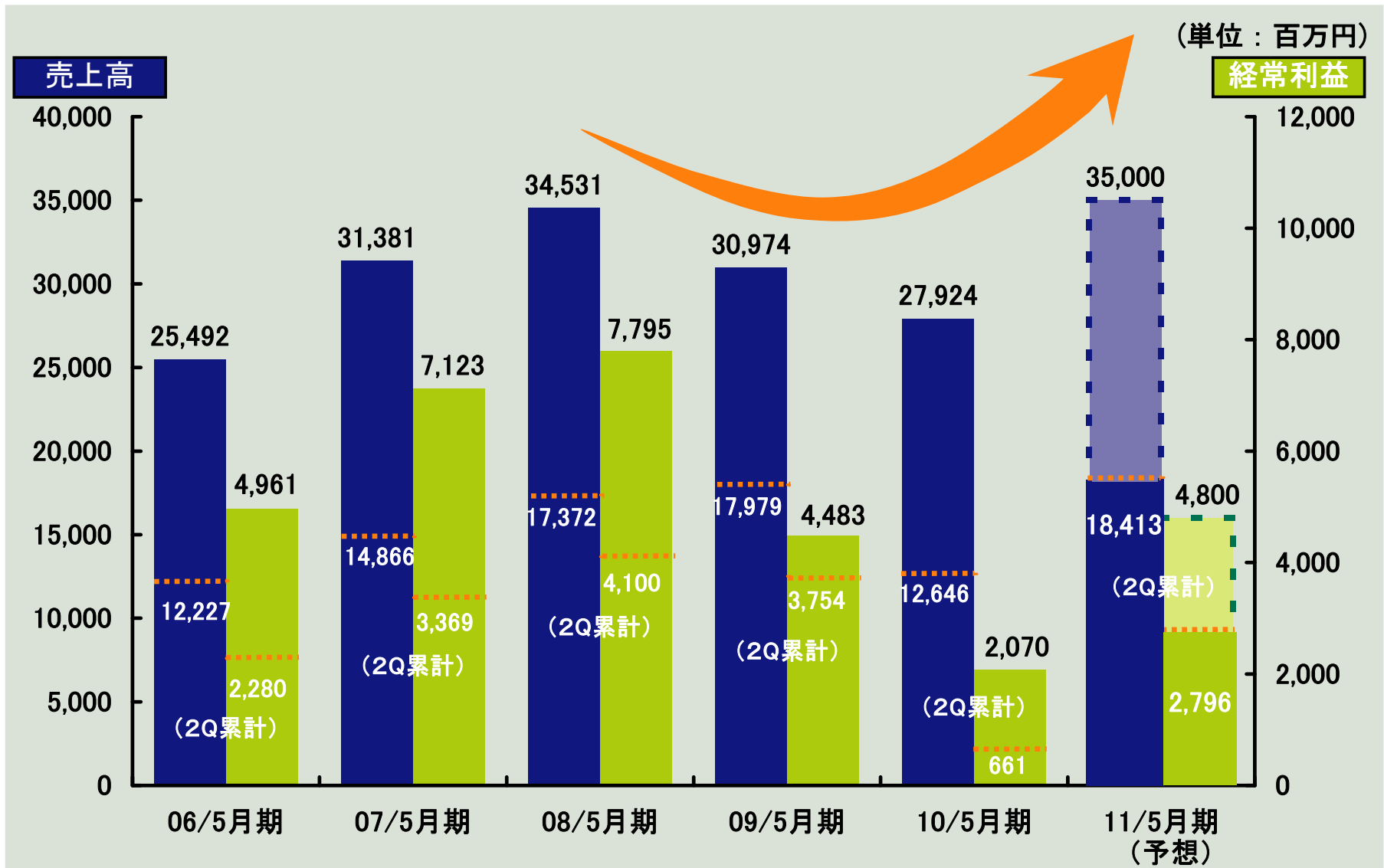
2011年1月

東洋炭素株式会社

1-1.	業績推移	P. 3
1-2.	2011年5月期第2四半期業績	P. 4
1-3.	経常利益増減要因	P. 5
1-4.	製品・分野別概況	P. 6
1-5.	地域別概況	P. 9
2-1.	2011年5月期業績予想	P.10
2-2.	将来への投資(設備投資・減価償却費・研究開発費)	P.11
2-3.	株主還元	P.12
2-4.	主要経営指標の推移	P.13
3.	伸びゆくアジア市場	P.14
(参考1)	2011年5月期第2四半期貸借対照表	P.16
(参考2)	2011年5月期第2四半期キャッシュ・フロー計算書	P.17

# 1-1. 業績推移

売上高・利益とも急回復。再び成長軌道を目指す



# 1-2. 2011年5月期第2四半期業績

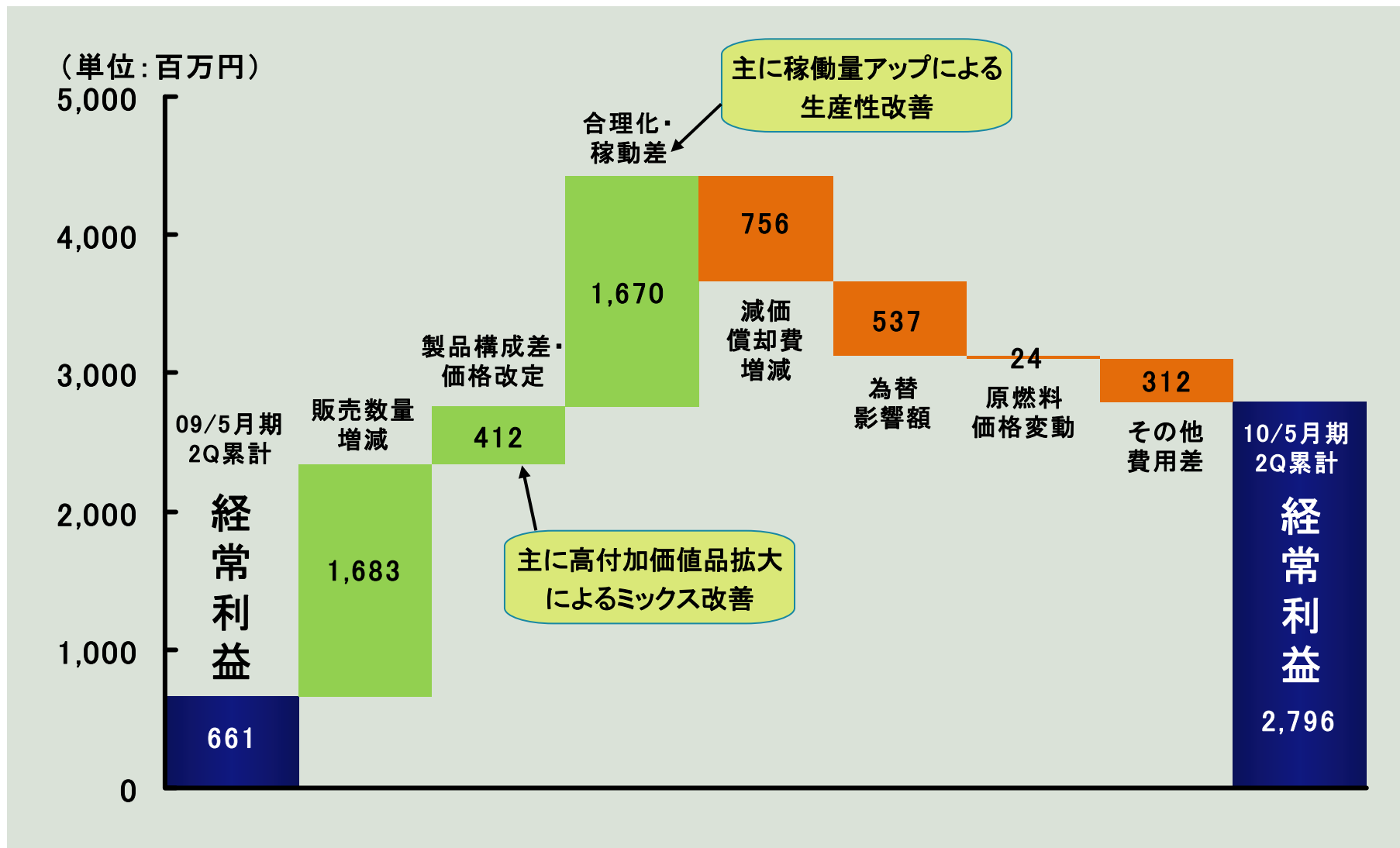
	(単位:百万円)			
	10/5月期 2Q累計	11/5月期 2Q累計	増減額	増減率
売上高	12,646	18,413	5,767	45.6%
営業利益	817	3,019	2,202	269.6%
(売上高営業利益率)	(6.5%)	(16.4%)		
経常利益	661	2,796	2,135	322.9%
(売上高経常利益率)	(5.2%)	(15.2%)		
税引前利益	782	2,568	1,786	228.4%
第2四半期 純利益	369	1,916	1,547	418.2%
1株当たり 第2四半期 純利益	17円84銭	92円45銭		
為替レート	92.9円/\$ 134.0円/€	85.5円/\$ 111.6円/€		

## ポイント

- ・円高による目減りをはね返し、前年同期比で約1.5倍、半期としては過去最高となる184億円の売上を達成。
- ・用途的には太陽電池用とLEDを主とする化合物半導体用が全体をけん引。複合材製品が大幅拡大。地域的には中国・韓国を主とするアジアが大幅に伸長。
- ・核融合炉用・太陽電池用新規大型案件(C/Cコンポジット製品)が集中したことも寄与。
- ・急激な円高ならびに高水準の減価償却費負担の影響はあったものの、前年同期比で4倍以上の経常利益を計上。
- ・高い限界利益率を背景とする売上拡大にともなう利益増に加えて、コーティング製品等の高付加価値品の拡販が利益貢献。

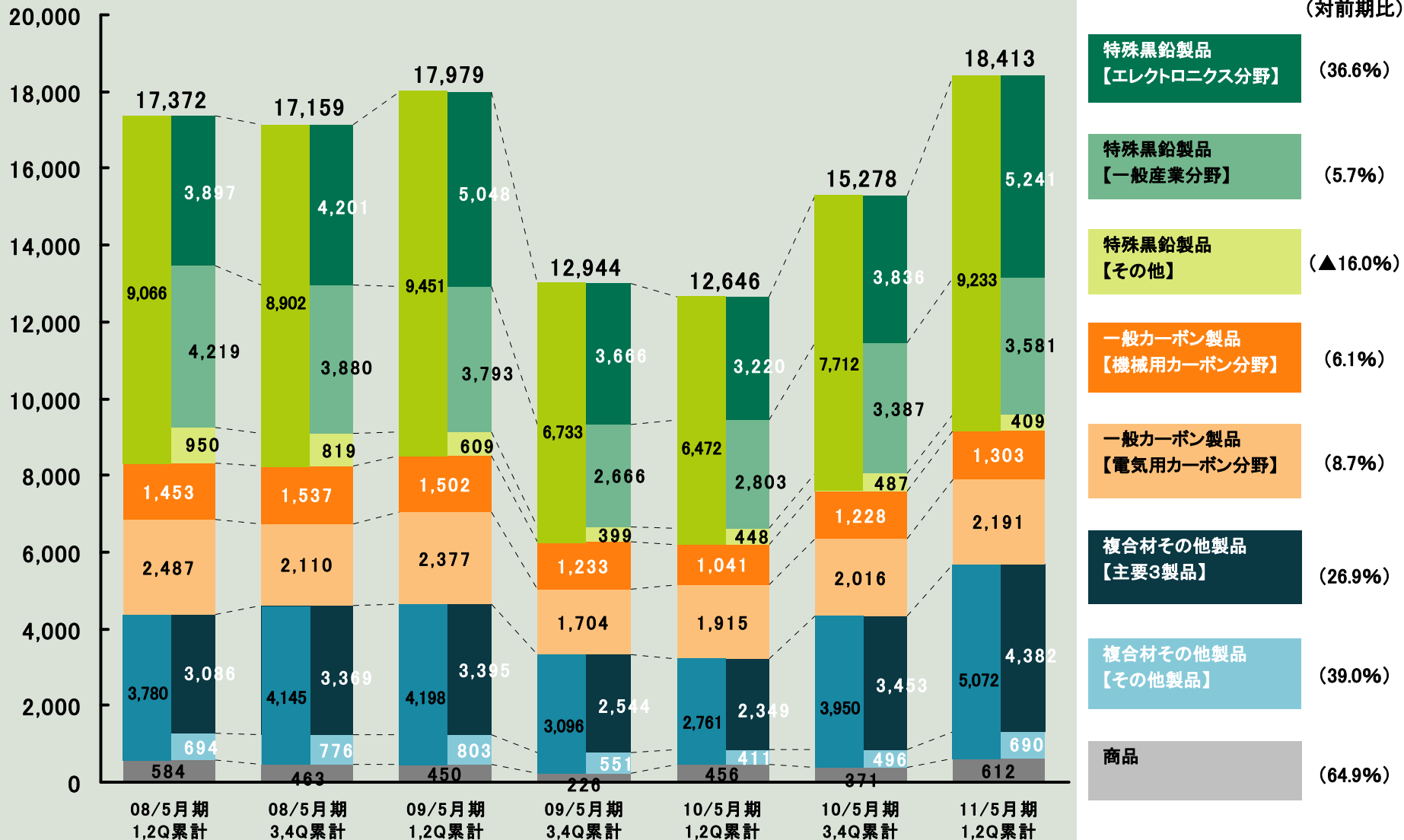
# 1-3. 経常利益増減要因

減価償却費増・円高の影響あるも量拡大と高付加価値品の拡大により大幅増益



# 1-4. 製品・分野別概況 ①売上高推移

(単位: 百万円)



# 1-4. 製品・分野別概況 ②ポイントおよび今後の見通し (1/2)

用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し	
	10/5月期 3,4Q	11/5月期 1,2Q	11/5月期 3,4Q予想		
特殊黒鉛製品 エレクトロニクス分野	太陽電池製造用				<ul style="list-style-type: none"> <li>前4Qからの急回復の流れがさらに加速。主力の中国ならびに韓国・台湾等含めたアジア地域の需要が大幅に拡大。日本・欧州・北米も堅調に推移。</li> <li>上期の売上高としては既にピーク時を上回り、前年同期比では約8割増、前下期比でも約7割増の水準(C/C除く)となった。</li> <li>中国ならびに韓国・台湾の大手顧客の増設意欲は依然強く、増設計画も目白押し。一部過熱の懸念があるが、足もとの黒鉛不足もあり引き続きタイトな状況が続く見込み。</li> <li>環境志向を背景として最終製品の市場も拡大へ。今後も、短期的な調整あっても中長期的な成長軌道に。</li> </ul>
	単結晶シリコン製造用				<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の在庫調整の影響は既に解消し需要は回復。ただし半導体業界の踊り場を背景に国内市場は一部停滞。前年同期対比では大幅増なるも前下期比では横這いの水準にとどまる。</li> <li>様子見となっている300mmの増設についても不透明のままであり、国内は当面は変化無い模様。海外市場は徐々に拡大の見込み。</li> </ul>
一般産業分野・その他	放電加工電極用				<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車・家電産業の回復を受けて、既に前下期より中国をはじめとする海外市場を中心に緩やかに回復。</li> <li>ただし国内は、円高等の構造問題含めて金型業界の状況は厳しい。アジアをはじめとする新興国でのさらなる需要増に期待。</li> </ul>
	連続鑄造用・冶金用他				<ul style="list-style-type: none"> <li>景気回復と、特に新興国でのインフラ投資の活発化を背景に、需要は順調に回復中。</li> <li>経済対策縮小の反動懸念があるが、自動車関連および半導体/電子部品関連産業の底堅さを背景に今後とも堅調に推移予定。</li> </ul>

# 1-4. 製品・分野別概況 ②ポイントおよび今後の見通し (2/2)

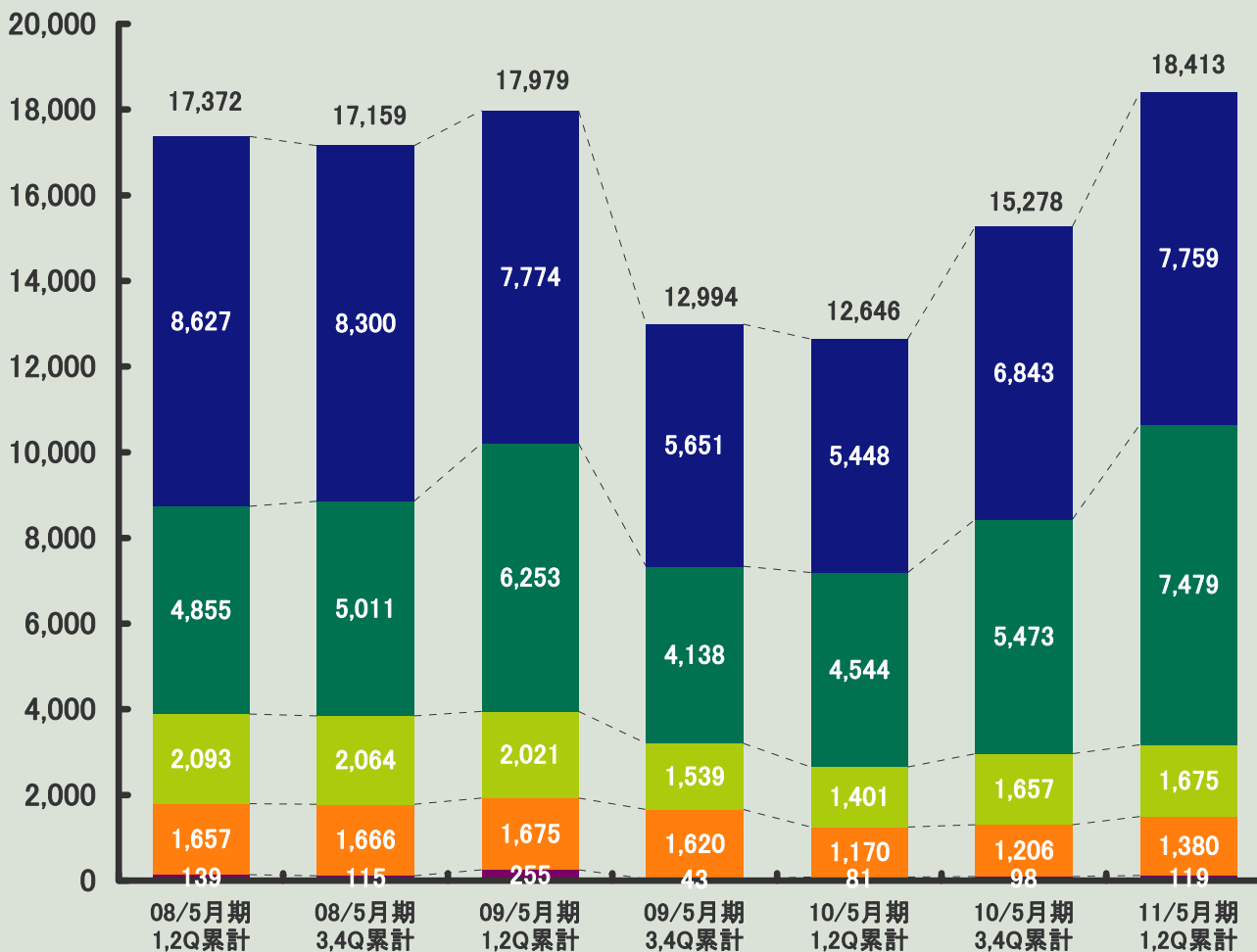
用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し	
	10/5月期 3,4Q	11/5月期 1,2Q	11/5月期 3,4Q予想		
一般カーボン分野 カーボン製品	機械用 一般産業用				<ul style="list-style-type: none"> <li>国内は、経済対策の効果もあり主力の軸受け・シール材等がポンプ・エアコン等の復調を受けて回復基調継続。</li> <li>遅れていた海外も、エネルギー・インフラ関連の回復を背景に、新規顧客開拓も奏功し拡販が進む。</li> </ul>
	輸送機械用				<ul style="list-style-type: none"> <li>景気変動の影響少ないパンタグラフ用すり板は、引き続き安定的に推移。懸案である海外展開に向けて引き続きワーク推進中。</li> </ul>
	電気用カーボン 小型モーター用				<ul style="list-style-type: none"> <li>世界的な景気回復を受けて、主力の中国を中心に既に前下期より需要拡大進む。海外売上が約8割を占め円高による目減り大きい、それをこなし売上は漸増基調。中国では設備増強も順次計画。</li> <li>期後半に入り中国の掃除機用が一部調整局面となっているが、中長期にはなだらかに伸長する見込み。</li> </ul>
	産業用・自動車用他				<ul style="list-style-type: none"> <li>産業用は低迷を脱し順調に回復中なるも売上規模は依然小さい。フェルポンプ等の国内自動車用は、エコカー補助金制度終了の反動もあり後半にかけて伸び悩んだ。</li> </ul>
複合材その他製品 主要3製品	SiCコーティング 黒鉛製品				<ul style="list-style-type: none"> <li>化合物半導体用は、LCDバックライト用を主とするLED関連の高成長に支えられ引き続き高水準。特に韓国・台湾・中国での増設に加えて、国内勢も遅ればせながら増勢となる等、好調に推移した。なお足もとは過熱感もあり韓国を中心に一部顧客の受注が調整局面に入り一服なるも、下期中には調整は終わる見込み。</li> <li>半導体関連(Si-Epi用等)も本格回復。全体として上期は前年同期比約6割増、前下期比でも約2割増の拡大となった。供給体制も日米拠点で大幅な設備増強を実行中。素材～加工～コーティングの一貫競争力をさらに高めて優位性を確保していく。</li> </ul>
	C/Cコンポジット製品				<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体用(300mmウエハー製造用C/Cルツボ)は、主要顧客の在庫調整も解消に向かい徐々に受注回復。売り先も拡大しつつあり、今後も堅調に推移予定。</li> <li>太陽電池関連は、前4Q以降の拡大の流れ継続。新規プロジェクト案件の集中に加えて、既に受注済みの核融合炉向けのスポット納入も2Qに入る等、大幅増。</li> <li>全体として上期は前年同期比で3倍超、前下期比でも約4割増となった。今下期は集中案件剥がれて一服するも、来年度以降は再び成長続く見込み。</li> </ul>
	黒鉛シート製品				<ul style="list-style-type: none"> <li>主力の自動車用・半導体用を中心に回復基調継続。国内自動車用はエコカー補助金制度終了の影響もあり一部停滞するも海外がカバー。今後も堅調に推移する模様。</li> </ul>



# 1-5. 地域別概況 売上高推移

引き続き海外売上高比率は高水準(57.9%)。特にアジアが拡大し全体の4割に。

(単位:百万円)



## 構成比

日本 (42.1%)

各用途とも需要回復。高付加価値品や新規大型案件も寄与。

アジア地域 (40.6%)

太陽電池用・化合物半導体用が急拡大。プラシも健闘。

欧州地域 (9.1%)

欧州経済持ち直しを背景に太陽電池用中心に回復。

北米地域 (7.5%)

半導体・太陽電池用を中心に底入れ。ただし円高の影響が重しに。

その他地域 (0.6%)

## 2-1. 2011年5月期業績予想

(単位:百万円)

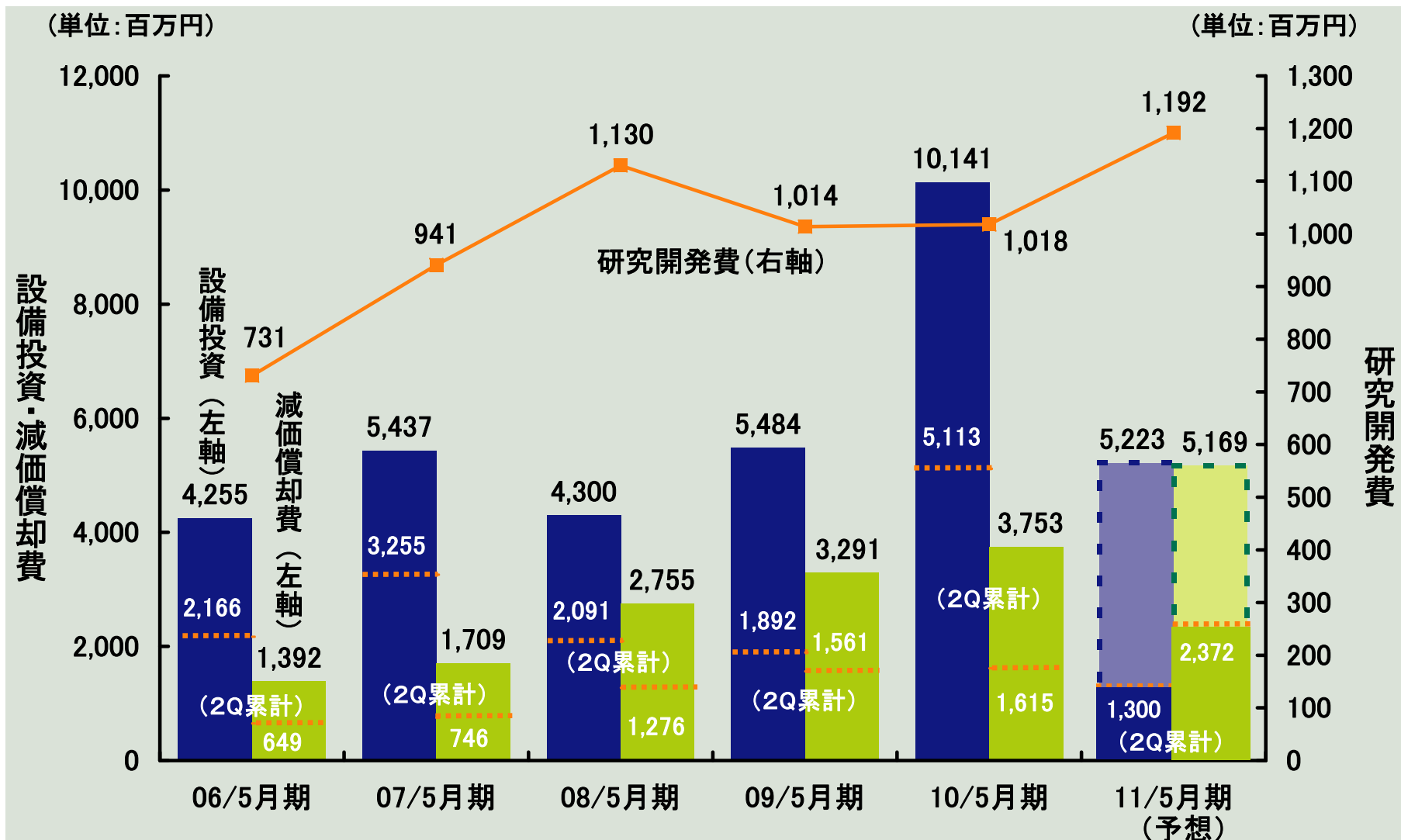
	10/5月期	11/5月期 予想	増減額	増減率
売上高	27,924	35,000	7,075	25.3%
営業利益	2,253	5,000	2,746	121.9%
(売上高営業利益率)	(8.1%)	(14.3%)		
経常利益	2,070	4,800	2,729	131.9%
(売上高経常利益率)	(7.4%)	(13.7%)		
当期純利益	1,442	3,300	1,857	128.8%
1株当たり 当期純利益	69円56銭	159円16銭		
為替レート	92.0円/\$ 129.3円/€	上期 85.5円/\$ 111.6円/€ 下期 80円/\$ 110円/€		

### ポイント

- 太陽電池用等の環境・エネルギー分野を中心に各用途とも堅調。地域的には中国・韓国等のアジアならびに新興国が引き続きけん引。
- ただしLED用は一部過熱感もあり受注は一時的に調整局面に。また上期に大型プロジェクト案件が集中し急拡大したC/Cコンポジット製品も下期は平準化する見込み。
- 上記ならびに円高による目減りも織込み、通期売上高予想は350億円(前年比25.3%増)に設定。
- 円高の影響ならびに減価償却費の増加も勘案し、営業利益50億円(前年比121.9%増)経常利益48億円(同131.9%増)を見込む。

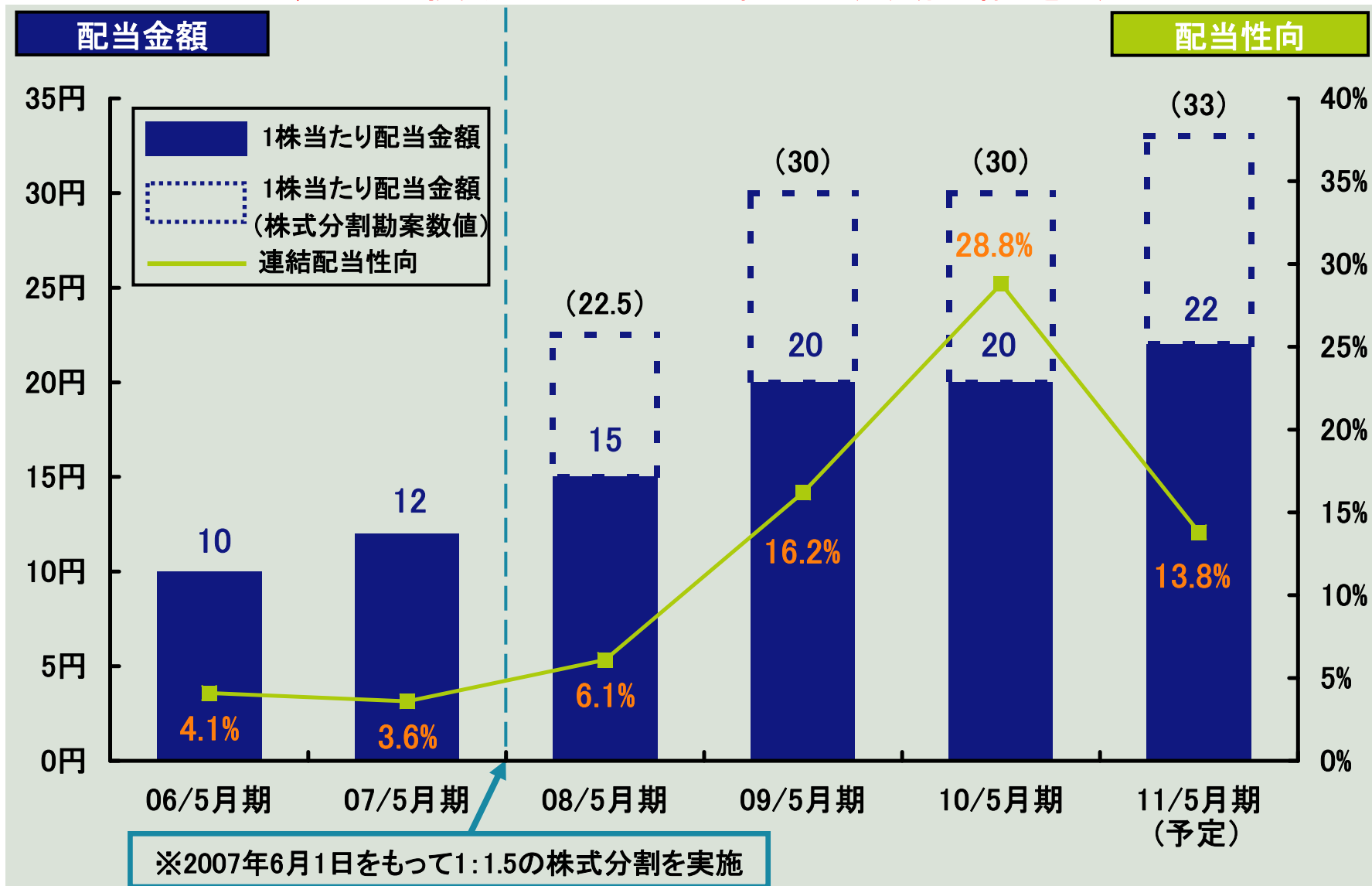
## 2-2. 将来への投資 (設備投資・減価償却費・研究開発費)

大型投資一巡。高付加価値化・研究開発投資と定常投資中心に。  
前期までの大型投資にともない減価償却費は高水準。

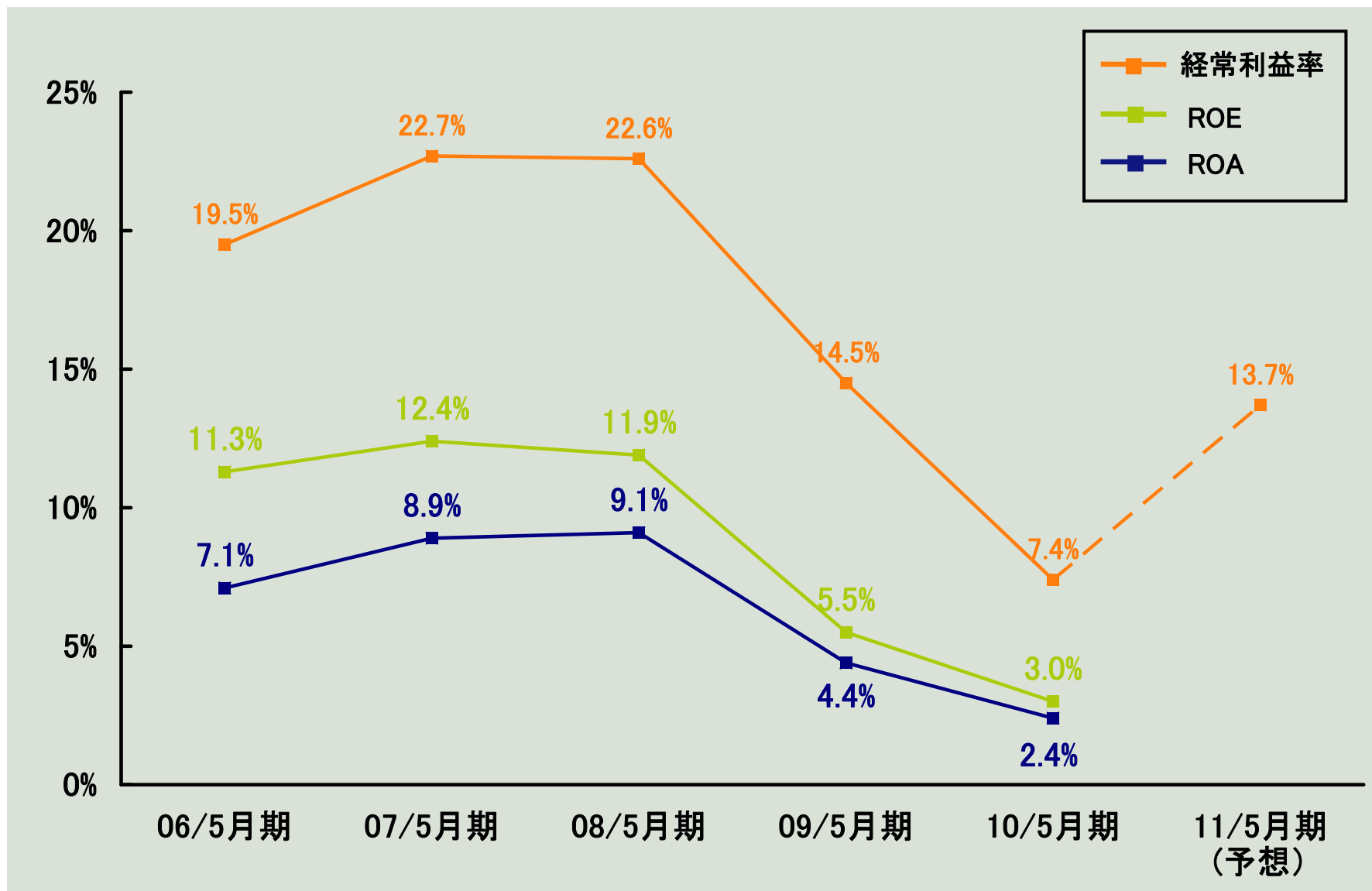


## 2-3. 株主還元 配当推移

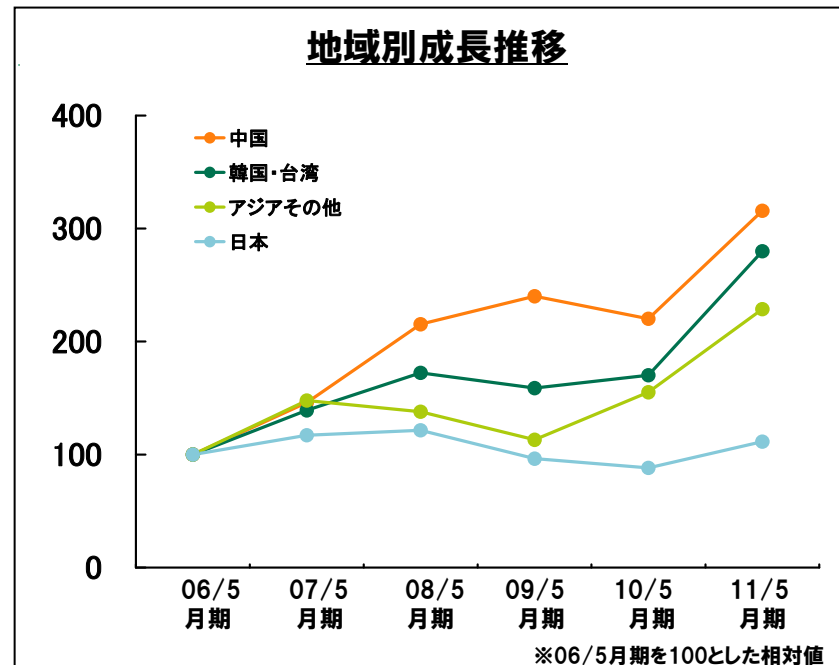
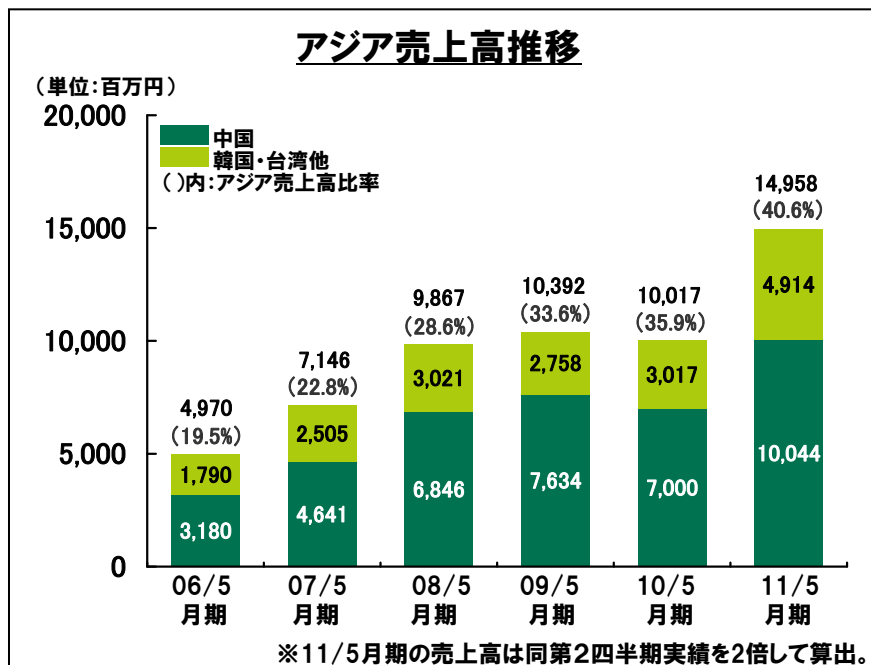
成長への再投資とのバランスも勘案しつつ、今期は増配を予定



## 2-4. 主要経営指標の推移

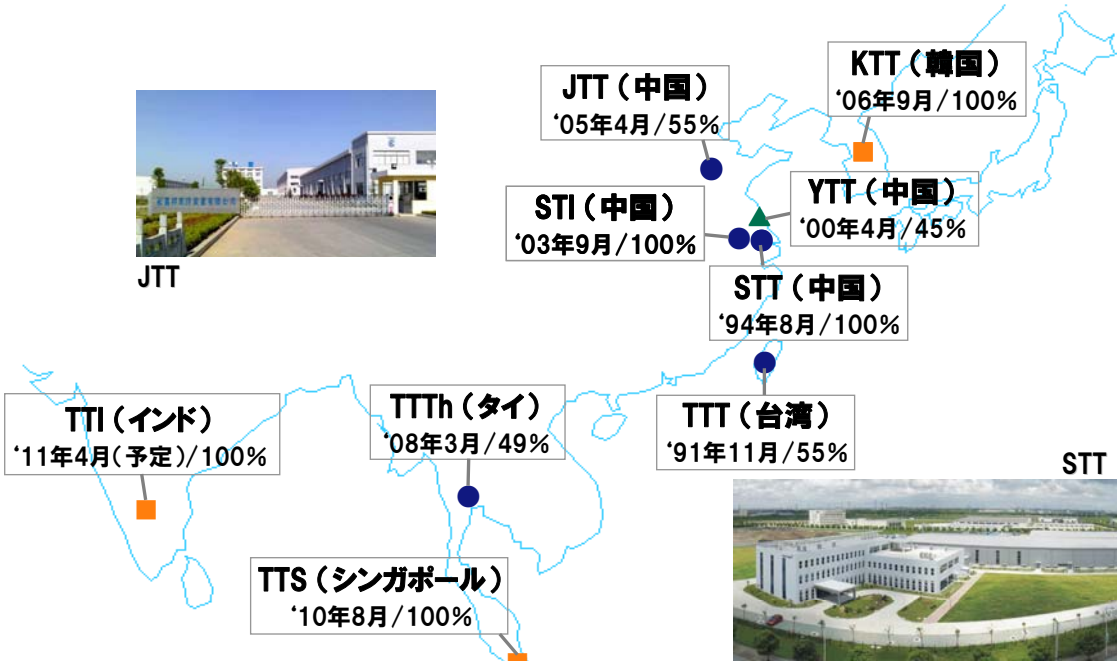


## 1. 成長の足跡 (売上高推移・内訳)



- ① アジア売上高は過去5年間で約3倍に急拡大。総売上高に占める比率も20%⇒41%とプレゼンス拡大。
- ② 中でも中国ならびに韓国がともに3倍以上に拡大し全体を牽引。中国の売上規模は100億円に達する勢いで、総売上高に占める比率も12%⇒27%と貢献度大幅拡大。
- ③ 用途別では太陽電池用・化合物半導体用がともに数倍以上と大幅に拡大。この2用途でアジア全体売上の約半分以上を占める。ブラシも堅実に成長。
- ④ 特に中国は太陽電池用、韓国は化合物半導体用が牽引。それぞれ各国売上高の約半分に達する勢い。

## 2. 進出の歴史と近年のトピックス



- '91年の台湾への進出を皮切りに、**現在9拠点(予定含む)を展開。**
- 中国は業界に先駆け'94年にSTTを設立。以降YTT・STI・JTTと拠点を拡大。特に中核拠点のSTTは、**年間売上高50億円を超える規模**に成長。
- 中華圏以外にも着目。'06年以降**韓国・タイ・シンガポール**と拠点を設立し、この度**インド**に進出決定。
- 各拠点とも拡張を実施。特にSTTは昨年**新工場(土地面積2万坪)に移転**し、さらなる拡大を志向。

## 3. 今後の展開戦略

- 需要の更なる拡大に呼应し、各拠点とも**能力増強を計画**中。
- 各拠点の連携を強め、**域内のオペレーション**も推進。
- 販売拠点は早期に**生産(加工)機能の付与**を検討。
- 一部**開発機能も移管検討**。(中国でのブラシ開発等)
- 高付加価値品の展開**も検討。
- 更に**新たな地域への進出**を視野にスタディ実施。

会社名(略称)  
設立または進出年/当グループ持株比率  
(●生産/販売拠点 ■販売拠点 ▲生産拠点)

# (参考1) 2011年5月期第2四半期貸借対照表

	(単位:百万円)			ポイント
	09/11月末	10/5月末	10/11月末	
<b>資産合計</b>	59,624	61,786	61,894	
受取手形及び売掛金	8,519	10,656	12,214	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高増加により10/5末比1,558百万円増。</li> </ul>
たな卸資産	10,289	10,910	11,339	
有形固定資産	25,807	28,290	26,979	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間在庫の計画的積み増し等により10/5末比429百万円増加。</li> </ul>
<b>負債・純資産合計</b>	59,624	61,786	61,894	
有利子負債	1,911	2,113	2,850	
資本金	7,692	7,692	7,692	
純資産	47,726	48,960	49,711	
<b>自己資本比率</b>	78.2%	77.4%	78.5%	



# (参考2) 2011年5月期第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

ポイント

	10/5月期 第2四半期	11/5月期 第2四半期
現金及び現金同等物の 期末残高	4,678	5,745
現金及び現金同等物の 増減額	▲1,734	▲56
現金及び現金同等物の 期首残高	6,412	5,802
営業活動によるCF	1,703	3,702
投資活動によるCF	▲3,349	▲3,915
財務活動によるCF	48	308

- ・増益、前期設備投資による減価償却費増により増加。
- ・売上回復による債権残高増により減少。



(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: [ir@toyotanso.co.jp](mailto:ir@toyotanso.co.jp)